

「PHOTON's 4th Photovoltaic Technology Show 2009 Europe に参加して」 －併設会議を通じて感じたヨーロッパ太陽光発電の現状－

2009年4月9日、第16回テクノセミナーにおいて、3月2日～6日までミュンヘンで開催された PHOTON's 4th Photovoltaic Technology Show 2009 Europe の概要を紹介した。本展示会は、太陽電池関連のコンサルティングや同名の雑誌の発行などを手がける PHOTON 社が主催する展示会（通称 PHOTON EXPO と呼ばれる）であり、併設される国際会議には世界の主要プレイヤーが揃うことで知られる。

展示会に併設された国際会議、7th Solar Silicon Conference、4th PV Production Equipment Conference (Part 1 - c-Si)、4th PV Production Equipment Conference (Part 2 - Thin film)の概要を林が紹介した。それぞれの conference で発表のあったトピックスとして、Solar Silicon Conference ではポリシリコン原料の価格動向とシーメンズ法に代わる熔融法などのアップグレードメタロジカルグレードシリコン形成法の取り組みについて、Equipment Conference では Part 1 - c-Si として、ウエハの極薄化と高性能化の流れおよび、インクジェットや PL 評価などで注目すべき次世代技術について、Part 2 - Thin film として、アモルファスシリコン薄膜型太陽電池、および近年急速に台頭してきた CIGS 薄膜型太陽電池のターンキーソリューションメーカーが提供する各種装置の概要などについて紹介した。また、日本では感じられなかった「新規参入ビジネス」としてのヨーロッパの太陽光発電について、会議、展示会を通じて感じたことを述べた。

背景となる最近の太陽電池市場の動向と展示会の様子について大西が紹介した。

PHOTON EXPO は、太陽電池メーカーの展示は全くなく、材料・装置メーカーが太陽電池メーカーへ売り込みをする機会である。そのため、先月2月に日本で開催された PV EXPO のようなお祭りのような要素はなく、淡々とした商談の場という雰囲気であった。今回の展示会では、ボトルネックであるポリシリコン市場への新規参入メーカーと、事業立上げを支えるターンキー製造装置メーカーが特に目を引いた。

欧州では、ここ数年、Fraunhofer、IMEC や ECN などの研究機関で開発した技術をもとに太陽電池関連のベンチャー企業が数多く設立されたが、それらがさらに大きな新規参入資本やグループに統合されてターンキービジネスとして成長しているようすが伺えた。昨年末からの金融不安の後でも、欧州における太陽電池分野への銀行融資等の投資意欲がまだ鈍っていないと感じた。



会場の International Congress Centre
Munich (ICM)



受付の様子
(中国専用の受付がある)

(株) 神戸製鋼所 電子技術研究所 林 和志
神鋼リサーチ (株) 先進技術情報センター 大西良彦